

令和4年度第1回三浦市総合教育会議会議録

○日 時 令和4年4月15日（金） 午後3時30分～午後4時19分

○場 所 三浦市総合体育館 会議室

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 報 告
 - (1)三浦市立学校における働き方改革について
 - (2)三浦市学校教育ビジョンについて
- 4 閉 会

○出席者（6名）

市 長	吉 田 英 男
教 育 長	及 川 圭 介
教育長職務代理	越 智 康 一
教 育 委 員	廣 瀬 牧 実
教 育 委 員	石 毛 浩 雄
教 育 委 員	石 崎 勇 吾

○説明のために出席した職員

教 育 部 長	増 井 直 樹	教 育 総 務 課 長	塚 本 孝 治
学 校 教 育 課 長	高 梨 真 一		

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー	浦 西 伸 一	学校教育課指導主事	荒 井 俊 彦
教育総務課主事補	吉 田 かおり		

○傍 聴（6名）

○増井教育部長 定刻となりましたので、ただいまより、「令和4年度第1回三浦市総合教育会議」を開会いたします。

本日の会議の進行は私、増井が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開となりますので、ご承知おきください。本日の会議開催にあたり傍聴希望者がおられますので入室の許可をいただきたくお願いします。

(傍聴希望者がおり議長(市長)に許可を受け傍聴者が入室)

○増井教育部長 改めまして、会議の主催者であります吉田市長からご挨拶をいただきます。吉田市長お願いいたします。

○吉田市長 皆さん、こんにちは。お忙しい中ありがとうございます。

総合教育会議を開催したいと思います。昨年度はコロナ禍ということもありましてなかなか開催できない状況もございました。学校の教職員の働き方改革や学校教育ビジョンの見直しの作業に入っていきますので、教職員アンケートの取りまとめ内容を本日報告していただくことになっています。

今年度は教育委員会としても大きな動きがある年になると思っていますので、教育委員の皆さんにも総合教育会議の現場や通常の教育委員の集まりでご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○増井教育部長 ありがとうございます。

議事の進行につきましては地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4において、地方公共団体の長が総合教育会議を設け、また、招集することになっておりますので、市長に議長をお願いいたします。

○吉田市長 それでは議長を務めさせていただきます。本日の会議は報告事項が2件となります。

早速ですが、報告事項の一つ目「三浦市立学校における働き方改革について」になります。事務局から説明をお願いします。

○高梨学校教育課長 三浦市立学校における働き方改革について、学校教育課より報告いたします。令和3年3月に「三浦市立学校における働き方改革推進方針」を策定し、働き方改革について推進を進めているところです。

全体の傾向といたしまして、令和2年度に比べ、令和3年度における各学校の月45時間以上の時間外勤務実態については、教職員の努力や意識改革、学校の工夫等もあり、全体的に減少しました。

また、教育委員会としても、年間5日間の学校閉校日の設定や、会議や研修を書面やオンライン形式にし、会議時間や移動時間を削減する等の工夫、また、スクール・サポート・スタッフやICT支援員、介助員を配置することで教職員の負担を軽減するよう努めてきました。

資料1の1ページをご覧ください。校種別、職種別に令和3年度の月ごとの時間外勤務の状況を示したものです。表面の校長から裏面の事務職員の勤務状況について示したグラフにつきましては、縦軸はすべて人数となっています。また、裏面の比較のグラフにつきましては、色分けについては割合を、グラフの中の数値については人数を表しておりますのでご承知おきください。

それでは、説明をさせていただきます。

校長については、小中学校ともに特定の校長が月45時間以上の時間外勤務をしているものの、概ね45時間以下となっています。

教頭については、小中学校ともに校長に比べ、時間外勤務が多くなっています。特に中学校において、慢性的に月45時間以上の時間外勤務を行っています。

総括教諭・教諭については、小学校は年度初めや学期末に時間外勤務が多くなる傾向があります。中学校は、休日の部活動を含めると、ほぼ半数が月45時間以上の時間外勤務を行っています。

また、中学校では、特定の教員が月80時間以上の勤務を慢性的に行っていることも分かりました。部活動もなく週末に勤務することが少ない小学校の実態を考慮すると、中学校に比べ小学校の方が平日の時間外勤務が多いということも想像できます。

養護教諭については、小学校に比べ中学校では月45時間以上の時間外勤務を行うものが多く、これは、部活動指導の影響と考えられます。

裏面の2ページをご覧ください。事務職員については、特定の事務職員を除くと月45時間以上の時間外勤務は行っていません。

続きまして、「令和3年度小学校学校規模による時間外勤務状況の比較」をご覧ください。

上段のグラフが小規模校（11学級以下）、下段が中規模校（標準規模、12学級以上18学級以下）の時間外勤務時間ごとの総括教諭・教諭の人数と割合を示したものです。

この場合、中規模校は初声小学校（R3は14学級）が該当します。小規模校はそれ以外の7つの小学校（5～9学級）となります。中規模校に比べ、小規模校は月45時間以上の時間外勤務を行っている教員の割合が多くなっていることが読み取れます。中規模校に比べ、小規模校は教員数が少ないため、教員一人当たりが受け持つ校務分掌も多くなっていることが影響していると考えられます。

資料1の2枚目、3ページをご覧ください。

教職員の働き方改革を推進するための昨年度、令和3年度の主な取組内容について報告します。指針において、働き方改革を推進するための視点を、「業務改善」「環境整備」「人的支援」「健康・安全」の4つを掲げておりますので、各視点ごとに報告させていただきます。

「業務改善」の視点では、会議や研修を、書面開催やオンライン開催することで、会議時間や移動時間を削減する工夫をしました。また、出席簿の様式を記号を用いて簡易化したり、コロナの発生報告書の書式を簡易化したりすることで、学校現場の負担を軽減を図りました。

「環境整備」の視点では、夏休み中に4日間、冬休み中に1日の計年間5日間、学校閉校日を設けました。また、ICカードを用いた出勤管理システムを引き続き運用しました。

「人的支援」の視点では、スクール・サポート・スタッフを市内全小中学校に配置したり、ICT支援員を定期的に各学校に派遣し、ICTを活用した授業の準備や授業補助を行ったりすることで、教職員の業務軽減に取り組みました。このICT支援員については、令和4年度は、1名増員し2名体制として運用しているところです。3か年計画で、年度ごとのタブレット等の活用頻度の目標を設定し、学校現場でのICT支活用を推進していこうと考えています。

「健康・安全」の視点では、昨年度教員のストレスチェック実施に係る予算を要求し、今年度実施することになりました。12月の実施に向けて準備を進めているところです。

学校における働き方改革を推進するためには、学校と教育委員会の連携、地域人材との協働、地域や保護者の理解が重要になります。学校が、教職員にとって「快適な職場」となり、子どもたちや保護者・地域から信頼される「魅力ある学び舎」へさらなる進化を遂げられるよう、引き続き、教職員の働き方改革を推進していきます。

説明は以上になります。ご協議よろしく申し上げます。

○吉田市長 説明は終わりました。ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

○越智職務代理 特定というのが何箇所かありますが、この特定という人がかなりオーバーしているのは、何か理由があるのでしょうか。また、解消できるものなのでしょうか。

○高梨学校教育課長 管理職の特定という意味である程度絞られてはきますが、学校通信をより多く発行している先生だったりするわけですが、ご自身の学校への関わる業務において伸びているのだろうということが判断できます。

教諭に関しては、休みの日に来て長時間行っているもので、これについてはあってはならないことなので管理職からも注意をしているところなのですが、ライフワークの一つではないですが、仕事の仕方のかたちとなっているので毎月注意喚起をしているところであります。

事務職員については、事務の不慣れな部分でということなので徐々に改善されてきています。

○増井教育部長 何か特有の問題、課題を抱えていて時間外勤務が多くなっているということではなくて、その人個人の仕事への関わり方などで時間外勤務が多くなっているという傾向があるということです。

○越智職務代理 働き方改革を推進するうえで、保護者の理解が必要になってくると思いますが、それについて取り組まれていることがあれば教えていただきたいです。

○高梨学校教育課長 例えば、この数年間コロナウイルス関係でこれまでなかった業務がかなり増えました。当初、教育委員会としては、基本的に学校へウイルスを持ち込まないことが大前提でしたので検温をしてから登校してくださいとお願いをしてきて当初は全員が全員守っていただけず、教員が朝早く来て業務をしていたことがあったのですが、今は協力を得ながら行っていますので、その部分については、特段早く行って時間外勤務を行うということはありませんし、また、働き方改革をしているという事態についても、各学校の学校通信で発信はして理解を求めているところであります。

- 越智職務代理 是非、進めていただければと思います。
- 吉田市長 保護者の協力が必要という越智職務代理のご意見ですけれど、それに対して働き方改革を実践していることを周知するのは誰でもできるので、どのように行っているのかを、きちんと継承していかないと意味がないので、資料にうまくまとめた方がいい。
- 石崎委員 時間外という言葉はあるので、時間内の基準は小学校も中学校も決まった時間があるのでしょうか。
- 高梨学校教育課長 基本は7時間45分の勤務です。学校によって始業の時間は若干ずれがありますが、休憩時間等も含めて8時から16時30分までが基本的な勤務時間になります。
- 石崎委員 その中で、先生たちの全体、学校単位でなのかは分かりませんが、学校経営や会議、打合せがあると思いますが、会議体というのは学校単位でそれぞれ決めているのか、これはやらなければいけない会議だよと統一して管理職の方達に言っているのか、まとめた時間というのもし働きの時間内に入っているということでしょうか。
- 高梨学校教育課長 会議につきましては、最低限行わなければならない職員会議等はありませんが、必要な会議は学校単位で決めています。ただ、会議のやり方も職員会議でしたら事前に書面で配布したり、データを送ったりして先に目を通してもらって、内容が全員分かった状態でスタートしたり、または、総括教諭の企画会議で先に練って、提案することで以前と比べて短時間で済むように取り組んでいます。
- 石崎委員 今のお答えに対してそれを学校単位で行われている会議も勤務時間内に収まるように準備もされているということでしょうか。
- 高梨学校教育課長 基本的にはそうです。ただし、緊急なものに関しては時間外となっています。
- 廣瀬委員 先ほど特定のというところでお話がありましたが、校長も学級通信をより多く出しているということで、その人の仕事の取り組み方をその人自身に任せているままでは解決していかないのではないかなと思いました。教諭でしたら校長が責任を持って指導をするということはあると思いますが、特に校長を指導するとなると学校の中ではないと思うので校長任せになってしまうので、そこを解決していくにはどのようにお考えでしょうか。
- 高梨学校教育課長 校長を指導していくのは教育委員会の仕事になりますので、そちらについては継続しながら指導を含め話し合いをして方向性を探っていきます。

○石毛委員　今回は令和3年度ということで、グラフが単年度だけなので前年、前々年度に対してコロナの状況もあると思いますが、これがどのように変化したのか単年度だけだと理解しづらいのでその辺の説明をしていただけますか。

○高梨学校教育課長　昨年度は、6月から学校が始まった関係で、4、5月は全くない状態で、そうすると若干バイオリズムが違うので始まった6月は昨年度に比べて昨年度は多かったり、年度初めから徐々に慣らしていった、年度末、忙しい学期末、学期始め時間外のトータルとしては少しですが全体的に減っていました。ただし、月によっては逆転することもあります。

○石毛委員　相対的に改善されているということによろしいでしょうか。

○高梨学校教育課長　意識改革は進んでいると思います。

○吉田市長　比較検討がされないのに、時間外の数字だけ出しても分からないものは資料として完全ではないですよね。働き方改革だから改革されていないと意味がない。改革を実践できるような形の資料、比較検討できるそういった視点でないとただ数字を並べているものでは意味がない。それと、時間外の管理というのはどのようにしているのかということ。時間外を減らすことが働き方改革に繋がるというのは至極当然のことですが、時間外が増えてしまっているのは、個人差があるのか、業務量の問題なのか、その問題点を改善するために取り組み内容が記載してあるが、それがどういうことに影響しているのか、改善の進捗状況を検証していかなくてはならないから、その分析がされないと働き方改革の取り組みの報告にはならないので、それを次の機会でもいいからきちんとまとめていただきたい。

時間外の管理についてはどうしていますか。

○高梨学校教育課長　時間外については、各学校で管理職が一覧で見られるように管理しています。教育委員会もすべての学校の時間外の状況が見られるようになっていて、保存文書としてあります。

○吉田市長　例えば、自己でも管理できないといけないと思うし、教職員というのは裁量労働だから時間外は給料に反映しないのがそもそもの問題の原点だと思うので、文科省等で裁量労働を改善しようという動きはないですか。

○高梨学校教育課長　動きはありません。

○及川教育長　研究はされています。働き方改革の部会の中で一日の勤務時間は7時間45分ということにするのではなく、年間の総時間にしようとか、そういう研究はされているのですが、結果としてこういう風になるとまでは至っていない。

○吉田市長　教職員の根本的な問題というのはそこかもしれませんね。通常の企業に勤めてサラリーマンとか労働管理がされているものと業種が違うのでその難しさはありますね。そう

いった時間外の管理をするような仕組みというのは、三浦市だけでなくほかの市も行っていることだから、比較して改善されているように実践していかないと働き方改革にはならないですね。いろいろ問題点はあると思いますが、文科省、県、教育委員会の報告書を作成するのが大変だという話もよく聞くので、教育委員会も意識して改善してくれているのはわかるけれども、どのくらいの負担が軽減されているのかということ項目にしていくといいですね。

なにしろ、働き方改革をやっているということは、実績が出ていないと意味がないので、それを見せられるように教育委員会でももう一度検証してもらいたいと思います。

私の意見に対して何かございますか。

○及川教育長 働き方改革については、校長たちと話をする機会があるが、そうした中で今回示した資料で小規模校（11学級以下の学校）の方が校務分掌を担う数が多いので時間外が多いとの説明がありましたが、実は校長たちと話をするともっと規模が小さくなった学校、例えば全校で70、80人という数になると分担する校務分掌自体がコンパクトになりますから数が多いでもある程度短時間でこなせてしまうということもあるので、時間外が減っていく。学校が小さくなっていくと時間外が減っていくという傾向もあるというような話も出ています。そういうことも考え併せていくと教員の時間外を学校の規模で考えていくと、学年に先生が一人しかないような状況、つまり、すべての教科を一人の先生が授業の準備もすることになっていく。あとは、一つの学級の子どもが多ければ先生が行う業務、成績を処理したり、授業づくり、授業の準備をしたり、時間がかかるということになりますので、そのように考えていくと先生の時間外が学年単学級で一クラスの数人が30人以上になると負担が大きくなるよね、とういうこともよく聞くところです。一応、参考までにお話ししたいと思います。

○吉田市長 いずれにしても、教育委員会としてそういう学校の実情も踏まえて働き方改革を見せていかないといけないので、そういう視点で行っていただきたいと思います。

○吉田市長 その他にございますか。

（発言等なし）

○吉田市長 それでは、「三浦市立学校における働き方改革について」を終了します。

続きまして、「三浦市学校教育ビジョンについて」事務局から報告をお願いします。

○高梨学校教育課長 三浦市学校教育ビジョンについて、学校教育課より報告いたします。

今年2月に、教職員を対象に「三浦市のこれからの学校教育のあり方」アンケート調査を実施しました。

結果について報告しますので、資料2をご覧ください。

「子どもたちに「生きる力」を育むために学校教育で重視することは」という質問項目では、「多様な考えに触れる機会」と「他者と関わり、どのような状況にも対応できる社会性を養う教育」が、校種・経験年数に関係なく必要性を感じていることが回答からわかりました。また、7割以上の教員が、「表現力やコミュニケーション力を養う教育」が必要と回答しました。

続いて、2ページの「主体的・対話的で深い学び」のために学校教育で重視することは」という質問項目では、年齢や経験等に関わらず、8割の教員が「学ぶ意欲が高まる授業や教材」と「安心して自己表現ができる学級・学年・学校」が重要だと回答しました。

3ページの「教員の授業力を上げるために重視すること」という質問項目では、校種を問わず多くの教員が、「校務負担を軽減した授業準備をする時間や教材研究の時間の確保」及び「子どもたちと向き合う時間」が重要だと回答されました。

また、多くの小学校教員は、「日常的に教材研究、学年運営、児童・生徒対応等を学び成長できる環境（OJT）が重要だと考えていることが回答からわかりました。

また、4ページのこれらのことを実現するために必要と考える小学校の学校規模及び1学級当たりの児童数に関する質問では、約6割の教員が、12学級以上（全学年複数学級）が必要だと回答しており、現状の学校より大きな規模の学校（7学級～11学級）を選択した教員も含めると9割弱の教員が「現状の学校より大きな規模の学校」が望ましいと回答しています。また、約6割の教員が、学級の人数は「21人～30人」がよいと感じていることが回答からわかりました。

5ページの小中連携の必要性については、9割の教員が必要と感じていることも回答からわかりました。

さらに、「小中連携について必要なことは」という質問項目については、約6割の教員が「学びのスタイルの連携や児童・生徒指導の連携」が必要だと感じていることがわかりました。

全体のまとめとしまして、今回の教職員アンケートを実施することで、約9割弱の教員が、現状より大きな規模の学校が必要だと考えていることが判明しました。

一方で、令和4年度の小学校の実態としては、7学級以上の小学校は、上宮田小学校（8学級）と初声小学校（13学級）の2校のみという状況です。

また、小・中学校教員の6割が「21人から30人」が良いと答えています。令和4年度の小学校の実態としては20人以下の学級が全56学級中20学級あり、約4割を占めている状況です。

教職員アンケートを実施することで、教員の思いと実際の小学校規模の現状が乖離していることが明らかになりました。

以上で報告を終わります。ご協議よろしく申し上げます。

○吉田市長 教職員アンケートについての報告は終わりました。

ご質問等ありましたらお願いします。

○石毛委員 Cの①校務負担を軽減した授業準備をする時間や教材研究の時間の確保という部分で現状でも確保は難しいのかなという見方をしてしまったのですが、コロナですと机の殺菌等いろいろな校務が増えたじゃないですか、それ以外にも報告書類の作成等ここ近年非常に増えてきていると聞いたことがあるのですが、その辺はどうでしょうか。

○高梨学校教育課長 実態としての時間外勤務は、若干減っているというものの、自分の仕事の順番を意識しながらやらなければいけないことをやってから帰宅する、帰宅後に教材研究をしているという実態は大いにあると思っています。

○吉田市長　これは教育委員会で報告書を代行したりとか、現場の負担の軽減を図っているとの報告は受けています。それでもまだ学校の現場としてはそういう意識が強いということでしょう。

○及川教育長　教員の仕事というのは、際限がないところなんですよ。授業の準備をするにあたって、何時間やっても十分だと思わない部分もあって、その部分に時間がより多く欲しいと思うのは教員の純粋なところだと思います。

○石毛委員　現状だとそういう時間が取れない、負担があるのではないかと心配していたのですが、働き方改革の話もありますけれども教育長の話であればそのような願望があってということ判断してよろしいでしょうか。

○吉田市長　そういう思いは教員にあると思います。

○廣瀬委員　私も同じところが気になっていて、先ほどの時間外のことにも通じるのかなと、コロナのことがあったので、私も施設で働いているとやっぱり学校内でコロナが発生してしまうと通常業務がパタッとストップしてしまって、そこに力がそそがれてほかの業務が後回しになるというようなことを私自身も経験していますので、多分、学校の先生もそのような場面がすごく多かった一年間だったのかなと思います。

うまく読み取れないのですが、1ページ目の表現力やコミュニケーション力を養う教育について7割近くの教員が必要に感じているという次のところの小学校で単複両方の経験した教員の方が、単級のみや複数学級のみを経験している教員より「表現力やコミュニケーション力を養う教育」が必要だと感じているという部分をもう少し詳しく教えていただけますか。

○高梨学校教育課長　最後のページに分析のために使ったデータを示しています。そこを見ると、小学校で単級だけ複数学級だけを経験している人よりも単級、複数学級を両方やってみた人の方が「表現力やコミュニケーション力を養う教育」がより必要と感じているということなので、このデータから読み取れることは、内容までは把握できませんが両方経験したから分かる部分の意見が入っているのかなと思います。

○廣瀬委員　中身まではわからないけれども、単級だと人数が少ないからこそそういう養う教育がよりできていたのか、複数学級だったからなのかなのかと。

○高梨学校教育課長　現時点での数字で出しているわけですがけれども、単級でも複数学級でもコミュニケーション力を養う教育は必要だと思って教員は日頃育んでいると思います。それをやっている両方の学級を経験したことがある人はより、コミュニケーション能力は必要だなと感じたことに意味があるのではないかなと思ってここにあげさせていただきました。この部分についてはもう少し現場に聞いてみて検討していきたいと思います。

○石崎委員 このアンケートの結果を見て、私もいいなと思う部分が多かったのですが、このアンケートの内容に対してどのように向き合って対応していくのか、例えば Aの「他者とかかわり、どのような状況変化にも対応できる社会性を養う教育」をどういう風にしていくのでしょうか。

○吉田市長 その部分については現時点ではアンケートの数字をまとめただけなので、それに対してどのように対応していくという報告ではないので、そこは理解してもらいたい。

○石崎委員 それで、今後どうしていくのかなと思ったので。

○吉田市長 学校教育ビジョンを見直していくうえで、目標、目的を作っていきますので、最初に作った学校教育ビジョンから見直しをしてバージョンアップしていくということなので、その前段としてのアンケートの結果ですので、これからの議論になっていくと思います。

○越智委員 このアンケート結果について、特に意外だなと思う部分はなかったのですが、この結果を活用していただければなと思います。

○吉田市長 この教職員アンケートについて、今までいろいろな協議や基本についての検討がされてきたと思いますけれど、設問の項目や内容について教育委員会だけで検討されたものなのか、校長会、地域協議会で検討をしてもらっての結果での設問なのか内容についての答えをお願いします。

○塚本教育総務課長 アンケートの設問項目につきましては、地域協議会で検討していただいたものがベースになっております。さらに、校長会、教育委員会、教職員組合の方にも広くご意見をいただいたうえで、あとは庁内の検討会議でも揉んでいただいて実施という運びになりました。

○吉田市長 ほかにご意見、ご質問はございますか。

この結果がベースになっていくものなのか、いろいろな手法で検討していくと思いますけれども、教職員の現場の意見ということで、越智委員もおっしゃっていましたが想像どおりだなということなのかもしれません、付帯する意見の自由記述欄などはなかったのでしょうか。

○増井教育部長 自由記述欄は設けておりました。私たちの期待としては、このアンケート内容に関する自由記述を求めていたつもりだったのですが、多くはそれ以外の学校の設備に関すること、日頃の働いているときに感じていることの記述が多かったのですが、アンケート内容に対する考えを述べたものはあまり多くない印象でした。

○吉田市長 わかりました。この件について今回は報告ということですので、これから様々な検討をしていく中で、これを参考にしていきますが、この結果に縛られず広くご意見をいただいて、取組んでいきたいと思っています。

○塚本教育総務課長 補足をさせていただきます。

本日は、教職員向けアンケートの集計結果についてご報告させていただきました。今後につきましては、地域協議会ベースで検討をしていただいたのでそちらにもご報告をさせていただきます、ご意見をいただいたうえでアンケートの結果としてまとめていきたいと思ひます。

さらに同様に、保護者向けのアンケートも今後予定しております。こちらにつきましても教職員アンケート同様、地域協議会をベースに多方面にご意見をいただきながらまとめていきたいと思ひております。

そして、令和4年度には、一般市民向けアンケート1, 200人を対象としたものを現在予定しています。この3つのアンケート調査の結果をもとに、三浦市学校教育ビジョンの見直し作業を完了していく考えであります。

○吉田市長 これから様々検討していくと思ひますけれど、あまり時間をかけずに時間の管理をしていってください。焦りなさいと言っているわけではないですが、きちんとスケジュールを追ってお互いに認識としていただければと思ひます。

そのほかよろしいでしょうか。

(発言等なし)

○吉田市長 他になれば、「三浦市学校教育ビジョンについて」を終わりたいと思ひます。それでは予定していた内容は終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

○増井教育部長 ありがとうございます。

本日予定していた内容は全て終了いたしました。その他に委員のみなさんからございますか。

(発言等なし)

○増井教育部長 以上を持ちまして本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

傍聴者の方はご退出ください。

◇ 午後4時19分 閉会 ◇